

## 主な研究活動

### 運営委員会

2013 年度		
第3回	6月26日	2013 年度海外提携機関からの招聘研究員について、21 世紀 COE 購入資産の処理およびホームページの閉鎖について、第二期研究成果のまとめについて、『年報 10 号』編集計画について
第4回	7月25日	2012 年度奨励研究者の成果論文の査読分担について
第5回	9月25日	2012 年度奨励研究者の成果論文の査読結果について、2013 年度海外提携機関からの招聘研究員について、紙芝居コレクション企画（展示・実演・公開研究会）について、2013 年度予算「研究班共通経費」の使用計画について、『ニューズレター』No.31 編集計画について
第6回	10月23日	2012 年度奨励研究者の成果論文の再査読分担について、2013 年度海外提携機関からの招聘研究員について、2013 年度海外提携機関への派遣研究員について、第三期（2014-2016 年度）事業計画について、2014 年度予算の編成方針について、2013 年度第 3 回公開研究会（租界とメディア班）について、2013 年度第 4 回公開研究会（海外神社班）について
第7回	11月29日	センター長の選任（選出方法・日程）について、第三期（2014-2016 年度）事業について、2013 年度予算（案）について、2013 年度海外提携機関からの招聘研究員について、21 世紀 COE プログラムのホームページ閉鎖にともなうデータベースの扱いについて

### 研究員会議

2013 年度		
第2回	10月23日	21 世紀 COE 資産の処分について、第三期（2014-2016 年度）事業計画について、2014 年度予算の編成方針について
第3回	11月29日	センター長の選任（選出方法・日程）について、第三期（2014-2016 年度）事業について、2014 年度予算（案）について、2013 年度海外提携機関からの招聘研究員について、21 世紀 COE プログラムのホームページ閉鎖にともなうデータベースの扱いについて

### 研究会

#### 研究班

『マルチ言語版絵巻物による日本常民生活絵引』編纂共同研究・研究会 6月4日、8月30日、9月13日、9月27日、11月13日  
『日本近世生活絵引』奄美・沖縄編纂共同研究・研究会 8月17日～19日  
『ヨーロッパ近代生活絵引』編纂共同研究・研究会 7月30日  
東アジアの租界とメディア空間・研究会 7月25日、10月18日  
海外神社跡地から見た景観の持続と変容・研究会 7月13日  
水辺の生活環境史・研究会 7月19日

### 現地調査

調査テーマ	日程	場所	調査メンバー
『ヨーロッパ近代生活絵引』編纂共同研究	8月6日～22日	ドイツ・オーストリア	ステファン・ブッヘンベルゲル
東アジアの租界とメディア空間	5月29日～6月1日	韓国	大里浩秋・孫安石
東アジアの租界とメディア空間	8月18日～9月1日	香港	村井寛志
東アジアの租界とメディア空間	11月21日～23日	韓国	内田青蔵
海外神社跡地から見た景観の持続と変容	5月30日～6月3日	台湾	中島三千男・森武磨
海外神社跡地から見た景観の持続と変容	10月3日～7日	ミクロネシア連邦	稲宮康人
海外神社跡地から見た景観の持続と変容	11月1日～7日	韓国	辻子実
海外神社跡地から見た景観の持続と変容	11月21日～27日	台湾	津田良樹・坂井久能・金子展也
水辺の生活環境史	8月3日～10日	北九州	田上繁・森武磨・安田常雄
水辺の生活環境史	8月26日～28日	大阪	安室知・川島秀一・常光徹・山本志乃・松田睦彦

### 表紙紹介

紙芝居コレクションの「展示作品一覧」を背景に、『宣戦』（大政翼賛會宣傳部 1942）、『滅私奉公』（日本教育畫劇 1941）、『大建設』（選挙肅正中央連盟 1942）の一部を配して表紙とした。「紙芝居」と「国策」という異質な言葉の結合が発する表出性によるのか、今回の紙芝居の展示会・公開研究会は、異例の好評であった。なぜか、戦時下紙芝居には絵も脚本も健康的なまでに明るい作品が少なくないのである。節約を求められながら、理想の標語に満ちた戦時下の生活は、一面で明るかったという。太宰治の「明るさは滅びの姿」という一文を思い出してしまうが、その実相を紙芝居から探ることも課題になるだろう。

### 編集後記

今号も、非文字資料研究センターに関する多方面にわたる研究活動の紹介が盛りだくさんありました。アジア都市フォーラムは、日中韓の協定研究所共催で開催され、この研究がより国際化されている事を示しています。本センターが収集した戦中の紙芝居コレクションの公開展示と公開研究会が開かれ、研究会では実演もあって、学内外から大きな反響がありました。また、海外神社班の活動が積極的に展開され、その調査報告も充実しています。共同研究の第2期が今年度で終了します。その成果を期待すると同時に、第3期の共同研究のさらなる展開に期待します。（M.O）